



（尚）林庭園設計事務所
〒193-0823 東京都
八王子市横川町 1096-3
Tel:042-622-8840
VOL. 6

バラ・クレマチスなど、この物に合う、支柱例の紹介

ミニおしゃべりな支持物を！



【作例1】かき付ける鉄筋を前後にすることで立体的に！作者いわく『3D』。穴の開いた壺を鎖で吊るしハンギング。鉄筋サイコロがくっついたり。施主様のご厚意により製作者の自由な発想をかけた施工をさせて頂きました。

蝸の斉唱が木々の間を響かせ彩りを深めていたかと思っていたら、夕暮れの運ぶ風は涼しさを超え最早肌寒くなり、移り変わる季節を鮮やかに伝えます。
愛庭のバラやクレマチスは、もつすっきり葉を落とし、壁際や塀際は寂しいものとなってはいませんか。近年、特にバラの愛好家が増え『花の女王』として、マイガーデンに導入を望む声を、よく聞きます。だがイメージの多くは花の盛りの刻ばかり。後は畑のキュウリやトマトでよく使うあの緑色のビニールでコート



【作例2】林の仕事を真・行・草に分けるとすると、これは『真』。作例1では錆を活かしているがここではペンキを塗布することにより冬場の主役交代を主張するようである。

イングされた支柱や、良くても市販の支持物です。どこか無機的で、庭とチグハグな不釣り合いな構造物で一層、冬の庭を寒々とさせてはいませんか。
そこで提案を込め、今回当社のもつ物の支持物の作例をご紹介します。これから塀際に、つる物やバラをと考えて居られる方のご参考になれば幸いです。庭と構造物との一体感は、葉を落とし、つるだけになった植物の誘引後のある種の造形美は、寒く遠のきがちな庭への散策回数や楽しみを確実に増やすこと請け合いです。

やカラスノゴマ、スズメノアワ、スズメノテップウ、スズメノヤリ、スズメノカタビラ等々。最期の「スズメノカタビラ」は道端でよく見る草だが、スズメの直垂「ヒタタレ」と呼ばずに帷子「カタビラ」という所なぞ、言えて妙である。堅苦しい「ひたたれ」でなく、「ひとえ」の素朴な衣装とした所なぞは誰が付けたか感心するばかり。また雑草とはゆえ、ひどい名前を頂くことになるものもある。ハクソカズラやハキダメギクなど何やら匂ってくる様である。さらにひどいものにママコノシリヌグイという草。今や死語となった継子。先妻の子の尻をトゲのある草で拭うとはヒドイ名を付けたものである。



いわゆる雑草と呼ばれるものには、皆がよく見るせいも、よく見る鳥の名前が使われます。その代表が雀や烏です。いわく、カラスウリ、カラスノエンドウ、カラスノゴマ、スズメノアワ、スズメノカタビラ等々。最期の「スズメノカタビラ」は道端でよく見る草だが、スズメの直垂「ヒタタレ」と呼ばずに帷子「カタビラ」という所なぞ、言えて妙である。堅苦しい「ひたたれ」でなく、「ひとえ」の素朴な衣装とした所なぞは誰が付けたか感心するばかり。また雑草とはゆえ、ひどい名前を頂くことになるものもある。ハクソカズラやハキダメギクなど何やら匂ってくる様である。さらにひどいものにママコノシリヌグイという草。今や死語となった継子。先妻の子の尻をトゲのある草で拭うとはヒドイ名を付けたものである。



【作例3】3Dアート。鉄筋のサイコロ、四角形が乱舞する。こちらの看板も面白く仕上がっているので今度紹介したい。

天声樹語



【ママコノシリヌグイ】葉の裏や茎に鋭い棘があり、触るととても痛い。

先だって、新聞でこんな記事を観た。
京都五山の送り火で被災地のマツを燃やすという計画が、放射性物質を恐れる声で、実現されないという。
もともと五山には、ナラ枯れや、マツ枯れの被害を受けた木が二万本以上有り、この枯木を鎮魂と復興の、それこそ「のろし」として燃やし、しかも、その木の伐採の仕事が被災地で、職を失った林業従事者に担ってもらえればと奔走している。ナラ枯れの研究をしている、京都在住の森林技術の研究者の話が取り上げられていた。
被災地のマツを燃やせなかったという事実はとてもやるせない気持ちはあるが、先の話を読んだときは、一服の清涼剤を飲むだ後の様な心地であった…。
森は知らず知らず人をも育てる？